

本市におけるまち・ひと・しごと創生の取組みを推進するために、「八代市総合戦略(平成 27 年度～平成 31 年度)」を策定しました。本市の特色を次のように捉え、人口減少の克服と自立的・持続的なまちづくりに取り組めます。



▼「八代市総合戦略」に掲げる基本目標と数値目標

- I. 魅力ある産業と雇用を創出し、活力に満ちた“やつしろ”
  - ・従業者数 48,544 人 ・製造品出荷額等 2,580 億円
  - ・農業者総所得額 54 億円
- II. 人をひきつけ、人が集う、活気ある“やつしろ”
  - ・観光入込客数 260 万人 ・観光消費額 130 億円
  - ・社会増減数 (H27-31 累計) ▲1,020 人 (※対社人研推計値から 179 人流出抑制)
- III. 誰もが希望をもって暮らせる“やつしろ”
  - ・希望出生率 2.07
  - ・65 歳以上人口に占める要介護 3 以上の割合 7.20%以下
- IV. “やつしろ”の発展を支えるまちづくり
  - ・住みやすいと評価する人の割合 75.0%

▼取組みの基本的方向

- 県南地域の経済浮揚を牽引する
- 世界とつながる熊本の副都心づくり
- 暮らしの希望を実現する
- 未来に向けたまちづくり

▼「八代市総合戦略」の特徴

**南九州のゲートウェイとしての拠点性向上 —国際貿易港「八代港」の振興—**

本市は、重要港湾の指定を受けた県下最大の「八代港」を擁しており、近年、国際コンテナ貨物の増加や、コンテナターミナルの拡充整備が進んでいます。港湾機能の強化や海外航路の新規開拓、ポートセールス等、国際貿易港「八代港」の利用促進により、南九州のゲートウェイとしての拠点性向上を図り、本市の産業の活性化と雇用の創出へ繋がります。



**交流人口の拡大 —世界に打ち出す観光業の展開—**

平成 24 年に外国のクルーズ船が「八代港」へ寄港して以降、年々その数が増加しています。この好機を逃すことなく、「八代港」におけるクルーズ需要を取り込み、インバウンド拡大のため、クルーズ船の寄港促進への取り組みや外国人観光客の受け入れ環境を整備・強化し、交流人口の拡大を図ります。



**多様な地域資源を活かす —フードバレーやつしろ基本戦略構想の推進—**

本市の豊富な農林水産物を中心とした「食」に関連する幅広い取り組みの展開による世界に通じる“やつしろブランド”の創出に向け、「フードバレーやつしろ基本戦略構想」を推進します。さらに、鉄道、高速道路が集中する交通の要衝としての立地条件を活かし、食関連産業や研究開発施設の集積と競争力強化、重要港湾「八代港」の活用による輸出拡大を図るなど、「食」を中心とした新たな産業の育成や雇用の創出を図ります。



**結婚・出産・子育ての希望をかなえる —暮らし—**

市民の暮らしの希望を実現し、未来に向けたまちづくりを推進するために、結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援を行うとともに、自立的・持続的な地域社会の形成に取り組めます。